



学校だより

平成29年4月28日 (金)

第762号

さいたま市立日進小学校

TEL: 663-6942

所作を丁寧に

校長 並木 昌和

新緑が目まぶしい季節になりました。

最近では、暑くなるのも以前より早くなり、この時期ならではの季節感を感じて過ごすことができる期間も短くなってしまったようです。

最近の技術の進歩は想像を超える速さで、なかなかついていくことができません。触れたことのない自然の様子や空気のあたたかさ、質感なども机上であるいはスマートフォンなどで体感できてしまったかのような感覚になってしまうこともあるようです。今では、掃除もロボットがやってくれ、調べ物も図書館に行かずにスマホで行い、買い物までも店舗に行かずにスマホで行うことで、玄関先まで届くといった具合です。数年前と比べるとある意味「便利」になったものです。しかし、これは本当に「便利」になったと考えてよいのでしょうか。本当に「便利」になったのであれば、もっと時間にゆとりができるはずだと考えるのは私だけでしょうか。

そんな事を思っていたら、武田双雲（書道家）氏が書いた文書に出会いました。武田氏は、“便利になり、人類は楽になるかと思いきや、なんだか逆に忙しく（せわしく）なっていて、心は楽になるどころか苦しくなっているようにも思えます。忙しいという漢字をよく見てみると、心が亡くなる、と書いてあります。便利さと引き換えに丁寧に接することを現代人は忘れていつているのかもしれない。せっかく便利になったのに心が亡くなるのは寂しいものです。僕は、書道教室の生徒の皆さんに『丁寧』に書くように伝えています。『丁寧』といってもただゆっくり書けばよいということではありません。『丁寧』とは漢字のとおり、寧の心。安らかな心でない丁寧とはいえません。上手いとか下手とかにとらわれていては、心は安らかではなく、比較や評価の心はどこかに置いて、墨の美しさや香り、筆の毛の動きのこまやかさ、紙から返ってくる感触。それらを感じることで、心が整っていることなのです。しかし人は早く上手になりたいとか、失敗するのがいやだ、褒められたいという気持ちもあって「今」を味わうことなく、未来への不安や対策にとらわれがちです。これが忙しくなる原因です。

『丁寧』にやると遅くなるイメージがありますが、実は速い。心が安定しているので動きに無駄がうまれにくく、ミスも起こりにくい、ノイズがないので、問題になるようなことを引き寄せないため、速いのです。結果として所作も美しくなるので、それに呼応するように筆や墨も共鳴してくれます。

これは書道の世界だけでなく日常のあらゆることすべてに応用できます。起きる、着替える、顔を洗う、食べるなどの所作が丁寧になると、生活が豊かになり、身体も心も円滑になっていき、人間関係も円滑になります。ひとつひとつの所作を『丁寧』にするだけで人生は豊かになっていくのだと実感しています。”と書いています。私には書家の世界観はよくわかりませんが、心を整えることや「今」を味わうこと、所作を見直してみるといったことには共感します。子どもたちの生活や態度もそうした視点で見ると、今までの違った見え方になるものです。

私たち大人が自らの所作をもう一度見直してみる価値があるのではないかと思います。

新しい学級、新しい友達、新しい先生とスタートし、1ヶ月が経ちました。なんとなくお互いの距離感を図りながら過ごしてきた時期は終わります。今までは見えてこなかった様々なことが見えてきたり、現れてきたりするものです。慌ただしく時は過ぎてしまっていますが、そんな時ほど子どもたちとゆっくりと向き合い、不安や心の変化に敏感でありたいものです。